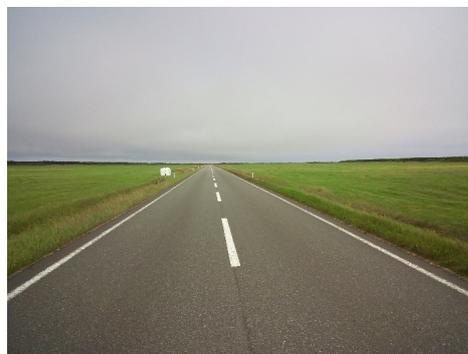
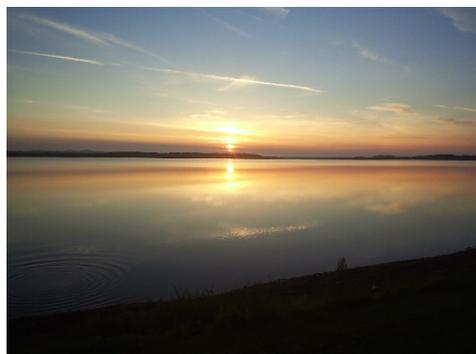


# MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第42号 2016年 11月

## もくじ

第11回エコアクション21全国交流会 in 大阪	竹本 秀人
『持続可能な資源利用のためのモデル事業』の実施	山田 英夫
環境カウンセラー全国連合会創立15周年記念式典	望月 眞
新入会メンバー活動報告と自己紹介 ～一般社団法人グリーンボード～	鈴木 圭子



写真：望月 眞

## 第11回エコアクション21全国交流会 in 大阪

2016年10月21～22日 大阪・大阪市中央公会堂

竹本 秀人

大阪市の歴史的建造物であり、国指定重要文化財の大阪市中央公会堂で開催され、今年で11回目となるEA21全国大会に参加した。今回の大会は480有余名の審査人が大阪に集い、大変熱気に溢れた大会となった。

第一回目の山形での全国大会に出た後、11回あった殆どのEA21の大会に参加したが、今回主催者の中心である大阪環境カウンセラー協会の審査人仲間が一年間に亘り鋭意努力して、作り上げ監修した、重厚なハンドブック ～審査・構築支援でアドバイスに資料集～(402ページ)が参加審査人全員に配布され、それを基にして2日間にわたり真摯に審査手法に関して関係者と深く話し合うことができ、自らの審査技法のチェックと今後の審査への姿勢を考える良い機会となった。大変勉強になり参加した甲斐があった。

ハンドブックは、1)コミュニケーション 2)製品サービスの環境配慮 3)環境法規 4)経営品質、の4本柱を軸として構成され、各々について攻めの手法では、

①グリーン購入、調達 ②省エネルギー ③節水・排水処理、④化学物質管理、⑤廃棄物管、守りの手法では①防災・BCP、②補助金活用、③リスク管理、④内部監査、の9項目をすべて網羅するものである。

今回の全国大会で発表された重要事項は以下の通り。

- ・新ガイドラインについて：  
22日の最終日に2017年度版新ガイドライン策定の現状報告がされた。全国での公聴会など経て2018年4月に新ガイドラインを発表する予定で、新ガイドラインへの認証移行期間は2年間を予定している。
- ・具体的な要求事項は、現在の「13項目」より「14項目」にすることで検討中とのことである。2009年度版の内容吟味の上、変更を策定することを進めている。
- ・主な変更点：専門分野登録の廃止。「審査人」の名称を「審査員」とする。

2017年度版以降の中央事務局の施策：

現在検討しているのは、2017年度版より、資格維持のために、今までの要件であるEA21研修会の受講・修了だけでなく、加えて審査人に必要な力量をチェックすることを検討している。

- ① 審査人は財務諸表を読めることが必須
- ② 普及活動プラス事業者へのフォローの現状をチェック
- ③ 人間力 自己評価が出来る審査人であること

これらの審査人の能力・力量をチェックするために新たにEA21審査人に対し試験実施も考慮している。

今回の大会では、一般財団法人持続性推進機構（エコアクション21中央事務局）の幹部が発表した、今後のEA21認証登録の目標として、

・認証登録件数を2016年現在の約7800件から、3万件を目標とし、そのために今後上記の施策など含め積極的に攻めたいとの事、目標達成のためには、審査人の更なる自己改革が必要であることを強調していた。

**『持続可能な資源利用のためのモデル事業』の実施**

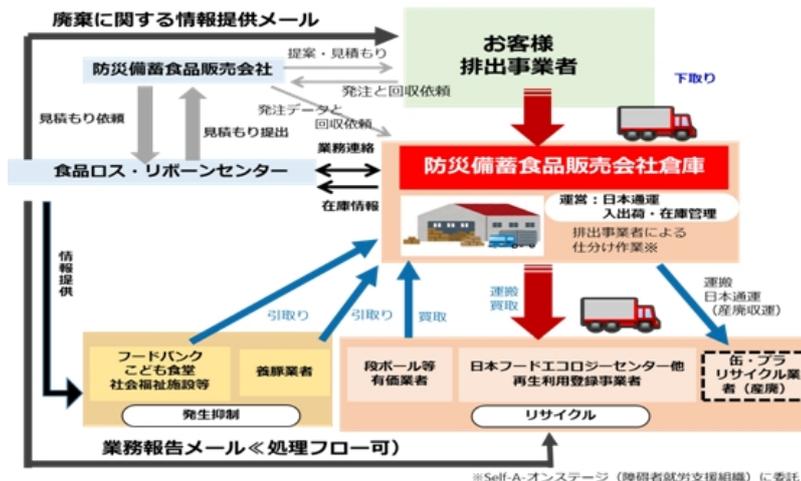
山田 英夫

私は食品流通分野で環境管理に10年以上携わり、3年前に環境カウンセラーになりました。昨年末に退職し、組織を出て自分自身を省みると、働いている組織ではコスト削減効果が顕著に出せるINPUTばかりに目がいき、OUTPUTである廃棄物の重要性を軽んじていた節があることに改めて気がつきました。

自分が携わってきた「食品」という分野に重点を置いて動こうと、この3月一般社団法人食品ロス・リボーンセンターを立ち上げ、農林水産省のエコフィード普及事業と東京都の『持続可能な資源利用のためのモデル事業』に取り組んでいます。

環境カウンセラーの先輩諸氏のご協力を頂きたく9月のMECCの会議で防災備蓄食品の食品リサイクルモデル事業の内容をご説明させて頂きました。取扱い対象を防災備蓄

食品にしたのは、食品の中でもアイテムが少なく、賞味期限が長くてボリューム多いことから、比較的管理しやすいためです。今回のモデル事業では物流施設を運営し事業可能性を探ります。上図は取組のイメージです。



もう一つ動いているプロジェクトを紹介します。三多摩地区で食品リサイクルループを地域で作る準備を進めています。私の住む小金井市は、市内にごみ処理場を持たないことから市民・行政総出で13分別を行いリサイクルと減量に努め、市のレベルでは市民一人当たりのゴミの排出量が日本で最も少ない自治体ですが、更に「生ごみ」の減量が求められています。そこで小金井で『東京江戸野菜』を売り出そうとしている農家と市民、事業者、行政が連携して食品リサイクルを廻し、生ごみを減らすことを考えています。

そのために10年近く名古屋で活動している『おかえり野菜』という食品リサイクルグループと連携し、

そのノウハウを以て三多摩地区で食品リサイクルが出来るか、検討しようという調査事業を行います。この事業は、私が参加している小金井市の廃棄物減量推進審議会の一部のメンバーで始めています。2020年東京オリンピック・パラリンピックのハードではなくソフトのレガシーとして、今行っている取り組みを成

就させたいと大きな夢を持っています。地域で活動され様々な知見を持たれる環境カウンセラーの皆さんのご意見を伺い、プロジェクトの精度を上げていくことが成功の肝だと思っております。是非ともご教示いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

# 環境カウンセラー全国連合会創立 15 周年記念式典

2016 年 9 月 10 日(土) 東京・神田 エッサム神田ホール

副理事長 望月 眞

環境カウンセラーは、環境省が 1995 年に「市民活動や事業活動の中での環境保全に関する取組について豊富な実績や経験を有し、環境保全に取り組む市民団体や事業者等に対してきめ細かな助言を行うことのできる人材」として認定・登録した制度である。環境カウンセラー全国連合会は、全国各地の環境カウンセラーによって組織された協会・協議会を束ねる組織として 2001 年に発足したもので、創設 15 周年を迎えて記念式典が開催された。

会場は 60 名程度が定員であったが、それ以上の参加があり、主催者側の事務方は立ち見となるなど、盛大な式典であった。

最初に、来賓祝辞として山本公一環境大臣の祝辞を環境省環境教育推進室長永見靖氏が代読され、祝電披露として加藤勝信一億総活躍担当大臣、斉藤鉄夫元環境大臣からも祝辞が寄せられた。

ECU 創設に当初よりかかわってこられた古里氏から「ECU 15 年の歩み」記念講演があり、配布された年表をもとに創設に至る成り立ちや、当時の苦労話などをされ、遅れて 2006 年に登録した筆者にとっては非常に興味深い話であった。

ちなみに MECC は平成 10 年(1998)設立、平成 14 年(2002)に NPO 法人となっているので、ECU の中でも最古参といえるのではないかな?

次に「今日の良き日に」と題して、環境カウンセラーで群馬県議会議員でもある臂泰雄<sup>ひ</sup>氏から祝辞があり、九州在住の環境インストラクター矢野郁子氏より「草笛を吹こう」と題する様々な葉っぱを用いた草笛実演があった。自然と親しむ観点から子供たちに草笛の普及啓蒙に取り組んでおられるとのこと、出席者にも挑戦させて、大いに盛り上がった。続いて佐々木 ECU 理事長の講演「ECU のこれから」では出版や教育での活動展開を述べられた。

最後は 15 周年記念顕彰の表彰式があり、当協議会会員から顕彰状として富川昌美氏、特別表彰状として林家カレー子氏、松島正氏、竹本秀人氏、加納啓有氏、宇野哲夫氏、一條美智子氏、筆者の 8 名が顕彰を受けた。

式典終了後は別室で懇親会があり、こちらも多くの方が出席され、様々なカウンセラーの方々と懇談でき、非常に有意義な会であった。

20 周年、30 周年と今後もこのような会を催せるよう、ECU の発展を祈りたい。



顕彰状受賞者(左から 4 人目が富川氏)

## 新入会メンバー活動報告と自己紹介

一般社団法人グリーンボード 代表理事 鈴木圭子

環境カウンセラーとしての活動は模索中です。まちづくり・園芸・緑化計画について大学で学び、公園や道のハードのデザインだけでなく、女性の目線からまちを見続け心地いい暮らしを考えるための情報の共有化をしたいと冊子を発行しています。現在、みどり、まちづくり、教育に関する委員を務めさせていただいており、当分まち歩きが欠かせません。



進化している「みどりの技術」や暮らしの多様化、気象の変動等に制度が追いついていないことが一番興味のあるところです。また高齢化によってもまちのあり方が変化しています。停留所や信号待ちに木陰がほしい……。雨水や太陽光を地域や個人で有効利用したい……。これからもまちづくりやみどりの仕組みや技術を見に国内外に訪ね、環境まちづくりのヒントを見続けたいと思っています。よろしくお願いいたします。

## 一般社団法人グリーンボードについて

任意団体を引き継ぐ形で平成24年法人を設立しました。事業はみどり環境情報誌「みちまちみどり」(現在27号編集)の発行のほか、まちづくり関係冊子を製作しています。またワークショップや展示、講演等を行っています。今年度は環境まちづくり展2016夏を行いました。スタッフや協力者の専門分野は多岐にわたり、医師、技術士、弁護士、画家、編集者、作家、同時通訳者、建築家など多くの方に支えられています。



**編集後記**：7月の終り頃仕事で、東京から飛行機、鉄道、バスを乗り継ぎ移動に丸一日をかけて、北海道も北端に近い浜頓別という場所に行き、そのクッチャロ湖畔に宿をとりました。クッチャロ湖はラムサール条約(特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)に登録された自然豊かな湖で、周囲は牧畜と漁業以外産業らしいものはありません。またそこでの話題は頻繁に出没するクマのことで、改めて人と自然との共生について考えさせられました。本号冒頭の写真はクッチャロ湖畔で見た夕日と、視界を遮るものが何もない一直線に伸びた道路で、如何にも北海道らしい風景と思いご紹介させていただきました。

発行者：NPO 武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局  
〒180-0011 東京都武蔵野市八幡町3-1-1 稲田 昂  
TEL：042-646-3822  
ホームページ：<http://www.mecc.or.jp/>  
編集者：望月 真